

差入ニ可伺出旨申付置候、畏入候由申之、且又仕立之事、大様相覺居候得共、久敷不手掛候故、重子ノ色目不分明之由相尋ニ付古キ菖蒲様之折形見せ遣、一覽シテ歸候、十三年五月一日庚辰、菖蒲枕今日令獻上、禁中東宮已上附長橋奏者所獻上中宮等三御所也、如昨年高貴宮、猗宮等不_及獻上、依雖以次奉書二枚包之以白紅水引二把結之、居二重繩目六臺下ダ札大江とし矩上ト認三御所共同様令獻上、一昨年之通也、長橋奏者所取次荒木天江之助、中宮御所奏者所取次茨木安太郎使平松道次著服紗麻次、上例年之事故一統可及披露由即席返答申之由也、

〔年中定例記〕殿中從正月十二月迄御對面御祝已下之事、

一四日○五の夜、昌蒲の御筵御枕參りて、玄かせられて御玄づまり候、

〔吾妻鏡三十二〕嘉禎四年元年仁五月四日戊寅、及晚自將軍家賴經被調進昌蒲御枕銀三金并御扇等於公家云云、件御枕者爲六位定役調進者也、而依被求御進物之次如此云云、

〔日次紀事五月〕五日 端五今日端五節中略大人小兒用菖蒲枕今夜

〔新後撰和歌集夏〕千五百番歌合に

立ばなにあやめの枕にほふ夜ぞむかしを玄のぶ限なりける

菖蒲湯

〔古今要覽稿時令〕あやめの湯 蘭湯 あやめの湯は菖蒲の根葉をきざみて湯に入て、五月五日に

浴する事なり、玄やうぶの根沐浴に入る事、本草又大戴禮月令などといふ書に侍ると世諺見え問答見え、

五月五日、昌蒲の御湯御行水ありと殿中御對面記見えたり、是は菖蒲の功能多くあるのみならず、可作

浴湯と、本草に出たるによれる也、いはゆる開心孔補五臟通九竅明耳目、出音聲云々、久服輕身不忘迷惑、延年益心智高志不老云々、四肢濕痺不得屈伸、小兒溫瘡身積不解、可作浴湯と本草綱目見え

たるにても、貴藥なる事玄られたり、玄かはあれど、殿中御對面記、世諺問答等によるに、四百年以降の遺風なり、又蘭湯に浴する事も此日なり、五月五日採蘭、以水煮之爲沐浴と抄芥見え是は、舊